

31年1月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成31年 1月1日～ 31年1月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は3社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
入荷動向	国産材製材品	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	外材製材品	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	その他	—	—	—
販売動向	国産材製材品	0.0	0.0	0.0
	外材製材品	0.0	0.0	0.0
	その他	—	—	—
在庫動向	国産材製材品	△ 33.3	0.0	△ 16.7
	外材製材品	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	その他	—	—	—

・国産材、外材製材品の入荷動向は3カ月連続減少。

・国産材、外材製材品の販売動向は3カ月連続横ばい推移。

・国産材の在庫動向は1月の減少から2は横ばい、3月は再び減少に。外材製材品は3カ月連続減少。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	16.7	16.7
	柱角 KD12×3	0.0	16.7	16.7
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	16.7	0.0	0.0
	タルキ	16.7	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	0.0
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	16.7	16.7
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	16.7	16.7
	柱角 KD12×3	0.0	16.7	16.7
	土台角 10.5×4	0.0	16.7	16.7
	土台角 12×4	0.0	16.7	16.7
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
カマツ土台角10.5×4	—	—	—	
米マツ平角	0.0	0.0	0.0	
米マツ割物	0.0	0.0	0.0	
北洋エゾマツタルキ	—	—	—	
北洋アカマツタルキ	50.0	25.0	25.0	

・スギは柱角KD10.5×3、12×3、ヌキは強含み。その他の品目は保合。

・ヒノキ柱角、土台角とも強含み。通し柱は横ばい。

・米マツ平角、割物とも横ばい。
・北洋アカマツタルキは強保合。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・秋口より丸太は出てきたが、製品需要が伸びているため需給や価格のバランスはとれている(中部)。
- ・国産材は原木不足、外材は輸入量の減少で入荷量が減少(大阪)。

(価格動向)

- ・スギ正角（乾燥）立法当たり60,000円、ヌキ42,000円、タルキ40,000円、ヒノキ土台角55,000円（東北）。
 - ・スギの羽目板、フローリングの原板は足りてないが、価格を上げる程ではない。土台は以前より手に入りやすい状態（中部）。
- ・スギ（KD）は原木不足のため価格やや上昇。スギの販売価格安価な商品はバイオマスに流れる。ヒノキも柱角（KD）、土台角も原木不足でやや上昇。北洋アカマツタルキ、ホワイトウッド間柱とも輸入量減少のためやや上昇（大阪）。